

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 団体用 )

## I 基本事項

整理番号 755

事業名	有害鳥獣捕獲隊補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	農業振興部	農林振興課		款	農林水産業費・6款
電話	0799 - 43 - 5025			項	林業費・2項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	林業総務費・1目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり			
	まちづくりの目標	ふやさんか 食づくりの担い手【農漁業】			
	施策目標	食づくりの源である豊穰の大地と海を守り、農業や漁業に携わる市民(若者、女性、元気な高齢者層など)を育てる			

## II Plan&amp;Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)			
		緑鳥獣駆除隊、南あわじ市三原有害鳥獣駆除隊、南あわじ市有害鳥獣駆除隊南淡路支部、南あわじ市西淡南淡駆除隊、南あわじ市灘有害鳥獣駆除隊			構成人数(人) 58
		活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 近年、農業生産において深刻な問題のひとつである鳥獣による農作物への被害の対策として、捕獲隊による鹿・猪・猿などの有害鳥獣の捕獲について、火薬・弾丸購入や事務費等の活動費を補助する。			
	実施内容	(主な事業、活動内容等) 銃器・ワナによる有害鳥獣の捕獲。			
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など) 鹿・猪・猿などの有害鳥獣による農作物への被害が大きい地区について、市・県より有害鳥獣の捕獲許可を受け銃器・ワナなどによる捕獲をおこなう。			
		事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ( ) <input type="checkbox"/> 旧町単位 ( ) <input type="checkbox"/> 旧村単位 ( )
	補助金算出根拠	定額 2 0 0 万円			
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から				

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	1,000	2,000	2,000	3,000
	有害鳥獣捕獲隊補助金	1,000	2,000	2,000	3,000
	財源 (千円)				
	国				
	県			1,000	1,000
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	1,000	2,000	1,000	2,000
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	1,000	2,000	1,000	2,000
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	17.2	34.5	17.2	34.5
	受益者人数( 58 )一人当り経費(千円)	17.2	34.5	17.2	34.5
経費に関する 補足説明					

### Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 平成18年度の捕獲隊による捕獲実績は延べ337頭(内訳として鹿295頭、猪41頭、猿1匹)で、農作物被害の抑制・予防に大きな効果があったと考えられる。	自己評価 (5点評価)						
		3						
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 捕獲隊による有害鳥獣の捕獲については、通常11月～2月の狩猟期であるが、それ以外の期間においても、鳥獣による農作物被害が大きい地区では地元自治会からの要望により、市より捕獲依頼及び許可を受けて活動をおこなっているような状況であるので、市民のニーズは高い。	自己評価 (5点評価)						
		4						
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 捕獲隊による平成18年度の捕獲実績は延べ337頭(内訳として鹿295頭、猪41頭、猿1匹)にのぼり、農作物被害の抑制に大きな効果があったと考えられるが、まだ各地区からの農作物への被害の声が多いのも事実である。地元からの要望もあり、今年度から捕獲許可期間が延長され、更なる効果が期待される。	<div style="text-align: center;"> <p>評価グラフ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用対効果</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>必要性</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> </div>	項目	評価	費用対効果	3	必要性	4
項目	評価							
費用対効果	3							
必要性	4							

## IV Action&amp;Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
今後の方向性とその理由	<p>これまでの経緯を踏まえると、今後も鹿、猪等による農作物への被害は減少しないと考えられる。よって、農作物への被害の予防・防止の面で、捕獲隊にかかる期待は大きい。しかし、度重なる出動には、弾丸、火薬等にかかる経費や事故防止のための十分な打合せ等にかかる事務費も必要となってくる。よって、今後も捕獲隊への補助は必要であると考えられる。</p>	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>現在の捕獲隊の活動費については、市からの補助金による部分が大きく、補助金が廃止になっても出動は可能であるが、活動費の減少によって出動回数が減少し、それによって鹿、猪等の有害鳥獣の捕獲頭数も減少することから、農作物被害の拡大が予想される。</p>	